

# KENGURO 季刊報 vol.2



平成 27 年 1 月 5 日発行

## Focus on !! 韓国・国立ハンバット大学校へ学生 11 名派遣 !!

海外学生との交流および外国文化体験を通じた学生の学識・人物両面の向上を目的として、平成 26 年 11 月 24 日～11 月 28 日の日程で、工学部学生 1 名、人文社会科学部学生 1 名、工学研究科学生 9 名の計 11 名を韓国・国立ハンバット大学校へ派遣し短期研修を行いました。国立ハンバット大学校は大学間学術交流協定を締結している大学で、ソウルと釜山の間の大田（テジョン）にあります。2 つの研修プログラムに焦点を当てて本研修のご紹介をします。

### ★国際キャブストーンデザイン・セミナー

岩手大学生 11 名とハンバット大学校生 10 名による双方向での成果発表（10 分/人）が行われました。トピックは化学、材料、情報、機械、環境、キャリア支援など、多岐にわたっており、動画を駆使した発表や制作作品を持ち込んでの発表もありました。多くの学生にとって英語での発表は初めての経験でしたが、派遣前に実施した練習会の時とは異なり、各自の考えや取組みを聴講者に伝えたいという気持ちが前面に出されたプレゼンでした。その甲斐あってか、質疑応答も学生間で活発に行われ、予定よりも 1 時間程オーバーしてセミナーが終了しました。その後、焼き肉レストランで学生交流会を開いていただき、参加者全員にとって大変有意義な研修となりました。



学内カンパニーを紹介中の中洞さん（機械）



セミナー後の学生交流会

### ★ハンバットフェア 未来教育フェスティバル参加

岩手大学生のうち代表者 3 名が、韓国語での自己紹介や英語でのジョークを交えながら、200 名を超える聴衆の前で学内カンパニーの紹介や成果発表を行いました。引率教職員をはじめ他の派遣学生も、3 人を誇りに思えるような発表でした。



韓国語で自己紹介中(?) の田中さん(人社)



本学派遣学生と引率教職員の全員で、ハンバットフェア会場前にて。

### 本学参加学生の声



**小原遼 フロンティア材料機能工学専攻 M1:**

ハンバットフェアの展示物は独創的なものばかりで、また建築物の模型も精巧に作られており、完成度の高さに驚きました。研究だけでなく実際にものづくりをする機会があるのは良いことと感じました。



**中洞秀明 機械システム工学専攻 M2:**

韓国の学生は、実用を想定したコンセプトに基づき、自分の学問分野を最大限生かして製品・ソフトウェアの形でのづくりを進めていました。売り込みをかける開発者のごとく、私たちに熱心に自信を持って自分の成果物の説明をする姿が印象的でした。



**瀬川奈未 社会環境工学専攻 M2:**

図書館には充実した学習室・ミーティングルームに加えミニシアターまで備えられており、また、工学部の各研究室も分析装置や実験器具等が充実していました。徹底的に学生生活をサポートする体制が取られており、新鮮な刺激を得ることができました。

### 派遣学生

**研究発表**

- フロンティア材料機能工学専攻 3名
- 社会環境工学専攻 1名

**学内カンパニー**

- ELEViX（機械システム工学専攻） 1名
- MMM（デザイン・メディア工学専攻） 1名
- SANT（機械システム工学専攻） 1名
- こずかた航空宇宙研究所（機械システム工学専攻） 1名
- Anonas Lighting（電気電子・情報システム工学専攻） 1名
- ECL（機械システム工学科、人社 / 環境科学課程） 各 1名

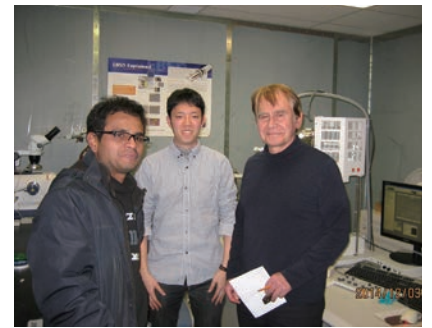
今回の派遣事業に際しご協力頂きました本学並びにハンバット大学校の関係各位に感謝申し上げます。

## ★カナダ・サスカチュワン大学へ研究インターンシップ学生を派遣!!

研究高度化・グローバル化特別対策室（通称：研グロ）では工学研究科教務委員会と協力して、昨年度に引き続き、今年度もカナダ・サスカチュワン大学への短期研究インターンシップを実施しました。同大学は、将来的な博士後期課程デュアル・ディグリー制度の締結を視野に、工学研究科が活発に学術交流を進めている大学です。

今年度は、6月、10月の英語プレゼンテーション選考会により、博士前期課程学生5名（応募者9名）を選出し、11月中旬から、3週間の研修日程で、順次派遣を行いました（うち1名は1月派遣予定）。受入先は、工学部の機械工学科、電気コンピューター工学科、土木地質工学科所属の3研究室です。派遣開始の11月中旬の時点で、現地の最低気温は既に約-15℃で、市の中心を流れるサウス・サスカチュワン川は凍結していたようです。厳寒で外に出るのが困難な中、派遣学生の皆さんは逆に研究に集中できたようです。

平成27年度も本インターンシップを実施する方向です。教員の皆様は、是非、研究室の院生の方々に応募を勧めて下さい。来年度は、暖かい季節に研修したいですね。



12/1～12/19の日程で研修を行ったフロンティア材料機能工学専攻M1の藤代研・望月さん（中央）。受入先のSzpunar教授（右）、Ritwik博士研究員（左）と共に、走査型電子顕微鏡装置前にて。研修では、 $MgB_2$ 超伝導バルクの微細組織を電子線後方散乱回折法により調べ、これまで研究してきた捕捉磁場特性との関連性を調べました。

### 平成26年度受入先と派遣学生

- 機械工学科 Szpunar 教授 : フロンティア材料機能工学専攻 藤代研 1名、小林（悟）研 1名
- 電気コンピューター工学科 Bui 助教 : 電気電子・情報システム工学専攻 小林（宏）研 1名、本間研 1名
- 土木地質工学科 Sparling 教授 : 社会環境工学専攻 大西研 1名

## ★中国・西北農林科技大学訪問!! 研究&岩手大学を熱烈アピール

平成26年9月22日～9月26日の日程で、部局間交流協定校である中国・西北農林科技大学を訪問しました。訪問先は、情報工程学院（情報系学部）と機械と電子工程学院（機械と電子工学系の学部）の2つです。岩手大学からは、デザイン・メディア工学専攻の教員4名（千葉教授、今野教授、藤本准教授、明石准教授）と西北農林科技大学出身の留学生1名（本専攻博士後期課程在学）が訪問し、研究テーマや大学の紹介を中心とした講演を行いました。また、留学生からは、自分の研究テーマの説明の他、岩手大学の環境や留学生生活などの紹介がありました。

講演の後、昨年8月に行われた日本・アジア青少年サイエンス交流計画「さくらサイエンスプラン」により、岩手大学へ来学した2名の学生とも再会しました。訪問の思い出を同級生にアピールしてくれていたようで、来年度の留学希望者が多くなりそうとのことでした。



「皆さん、是非、盛岡に!!」と岩手大学を猛烈アピール中の留学生の王さん

一ヶ月ぶりに再会した情報工程学院の学部生 Han さん（左端）と Liu さん（中央）。右端は今野教授。



## 掲示板

### ★今年1月に韓国・国立ハンバット大学から教員と学生が来学

本報 Focus on でご紹介しました学生派遣事業で、韓国側の世話人を務められましたハンバット大学校・工学部化学生物学科の李忠坤教授が学生数名と共に、平成27年1月13日～1月16日の日程で来学します。主に、本学工学部応用化学・生命工学科の各研究室を訪問し、化学分野で交流を行う予定です。

### ★更に更に、海外3カ国から教員を招聘し、国際連携を加速させます

研グロでは、海外大学との学生間交流を活発化するため、学術交流等がある海外大学から教職員を招聘し、自国の紹介をして頂くと共に、具体的交流に向けた話し合いを行っています。今年3月までに、更に、タイ王国のチュラロンコン大学およびキングモンクット工科大学（共に部局間学術交流協定を締結）、スウェーデン王国・国立リンネ大学、インド・ラニチャナマ大学から教員を招聘予定です。

## 編集後記

今回は、派遣・訪問事業についてお伝えしましたが、工学部では招聘活動にも積極的に取り組んでおり、海外大学との交流を深めています。事務として携わる中でも多くの外国人との出会いがあり、大学内にいながら国際交流を体験できるのは非常に貴重な経験だと感じています。みなさまにも、他国の研究や文化に触れていただければ、今後も講演会（銀河レクチャー）等を開催していきますので、ぜひご参加ください！（井上）

### 編集局：

工学部研グロ 小林（悟）、井上、齊藤  
Email: kenguro@iwate-u.ac.jp  
TEL: 019-621-6405